

復活節第6主日（A年主日の福音を中心とする「霊的な読書」）

（一）聖書朗読：ヨハネ福音 14：15-21

イエスは弟子達に言われた。あなたがたは私を愛しているならば、私の掟を守る。私は父に別の弁護者をお遣わしになり、永遠にあなたがたと一緒にいるようお願いしよう。この方は真理の霊である。私は、あなた方を孤児にはして置かなくて、あなたがたのところに帰ってくる。あなたがたは私を見る。私が生きているので、あなたがたも生きることになる。私を愛してする人にわたし自身を現す。

（二）カテキズムの響き（カトリック教会のカテキズムの番号#729、1286-1287、1303-1304、2615；YOUCAT #113、120、205）

イエスがヨハネから洗礼を受けられたとき、その上に聖霊が下ったことは、イエスが来るべき方、メシア、神の子であることのしるしでした。御父が限りなくお与えになる聖霊の充満はただメシアに限らず、メシアに属するすべての民としての私たちに与えられるはずのものでした。キリストは幾度かこの聖霊の到来を約束なさいましたが、それはまず復活の日に（ヨハネ 20:22）、ついで、いっそう目立つ方法で聖霊降臨の日に実現されました。即ち、イエスは栄光を受ける時が訪れた時に、初めて聖霊の到来を約束されました。さらに、私たちの祈りがイエスの祈りに結ばれる時、御父はイエスの祈りと名によって、別の弁護者、真理の霊をお与えになります。イエスも、御父のもとから聖霊をお遣わしになります。それは、聖霊が御父から発出しているからです。聖霊がおいでになって、私たちは聖霊を知ります。聖霊はいつまでも私たちとともにおり、すべてを教え、キリストのお話しをすべて思い起こさせ、キリストを証し、私たちに真理のすべてに導き、キリストの栄光を帰されます。さらに、世に関する罪、義、裁きについて、世の誤りを明らかにされます。それで、聖霊のうちにあって、キリストに結ばれて、御父との交わりになり、キリストのうちに喜びで満たされることになります。

今日、堅信の秘跡の効果は、かつて聖霊降臨の日に使徒達に行われたのと同じように、聖霊の注ぎが行われることです。そのために、堅信は洗礼の恵を増大さえ、深めてくれます。また、私たちに御父との関係を強めて、神の子としての身分を深めてくれます。それから、固くキリストに結びつけて、聖霊の様々な賜物を増やして、わたしたちと教会との結びつきをより完全してくれます。特に、キリストの証人とするために天からの力を授けられたという霊的なしるしをもって、聖霊の七つのたまものによって、信仰を広め、真理を擁護し、キリストの名を勇敢に公言できるようにさせてくれます。これは上智、聡明、賢慮、勇気、知識、考愛、主への畏敬です。

（三）カテキズムの学び（『コンペンディウム』カトリック・カテキズム要約の番号）

#265-270 堅信の秘跡の意義、儀式と効果
（聖霊の七つの賜物について、付録B：カトリックの教えの定式を参考する）

#143 復活のキリストは使徒たちに、さらに生まれつつある全教会に聖霊をお与えになります。

#545 キリスト者の祈りは、信仰のうちに、キリストの祈りに結ばれて、また、キリストにおいて、御父との愛、人類との交わりになります

最後の祈り：「造り主である聖霊来てください」

（カテキズム要約 付録A：共通の祈りを参考する）